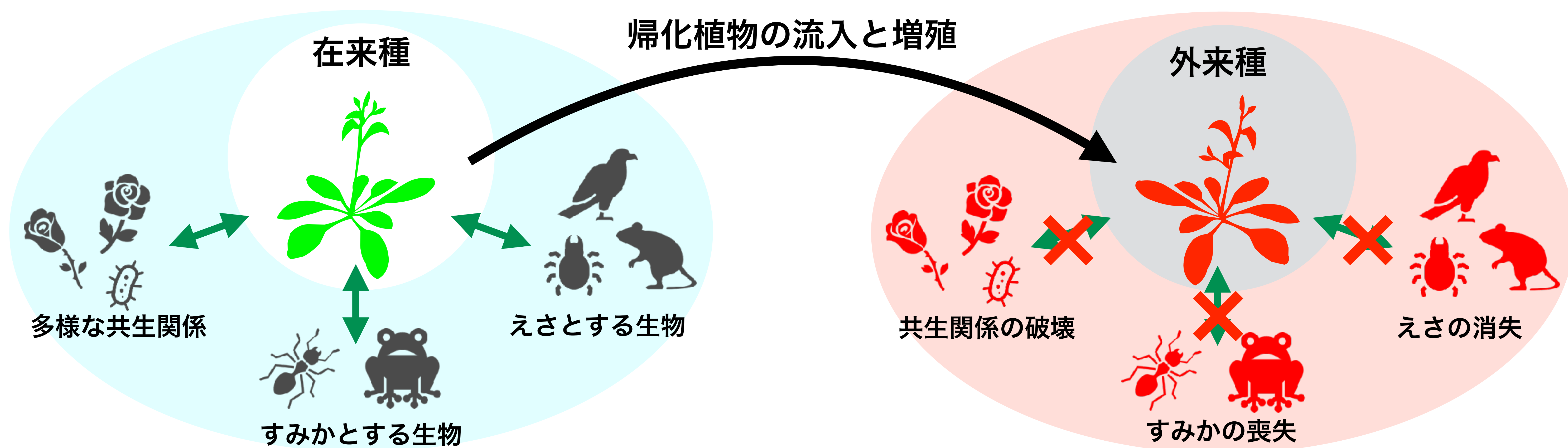




－ 帰化植物 何が問題なの？－

せいぶつ たようせい きかしょくぶつ 生物多様性と帰化植物

帰化植物の大きな問題は、在来生物の生態系への悪影響をもたらすことです。帰化植物は日本には本来ない植物ですが、繁殖力が強いので在来植物の生息場所を奪ってしまいます。そうした植物種の変化により昆虫や小動物達も影響を受けます。このように、日本固有の植物を中心として広がる生態系を、帰化植物が崩れてしまっているのが現状です。



せいたいけい ひ がいぼう し がいらいしゅ 生態系被害防止外来種

侵略性が高く、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれのある外来種が指定されている。例えば、セイヨウタンポポは海外でも侵略的な外来種とされ、国内では草原や高山等にも侵入し、在来のタンポポとの交雑が大きな問題となっている。



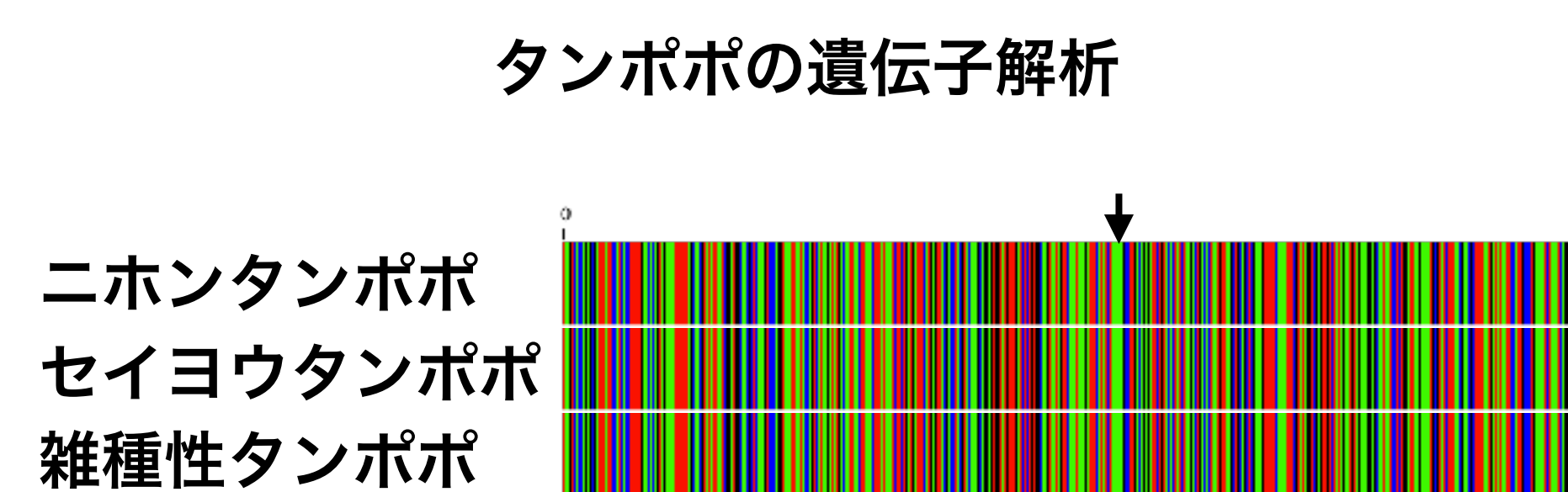
ニホンタンポポ
Taraxacum platycarpum
日本原産の多年草本。小さな花が円盤状に集まり、頭花を形成している。総苞片(そうほうへん)が上を向いている。



セイヨウタンポポ
Taraxacum officinale
ヨーロッパ原産で世界中に広がっている多年草本。札幌にアメリカ人教師が野菜として取り入れたのが始まりとの説がある。総苞片(そうほうへん)が外側に反り返る。



雑種性タンポポ
Taraxacum platycarpum × *Taraxacum officinale*
ニホンタンポポ×セイヨウタンポポ
都会などで圧倒的に増えており、多くがこの雑種に置き換わっている。春から初冬まで花を咲かせる。総苞片(そうほうへん)が横を向いている。



今回塩基配列を解析したところ、名古屋周辺産ニホンタンポポとセイヨウタンポポの葉緑体matK遺伝子は1塩基異なり区別が可能だった。しかし、ニホンタンポポと雑種性タンポポは同じ塩基配列だった。

とく てい がいらい せいぶつ 特定外来生物

より影響力の強い特に注意すべき外来生物。
外来生物による被害を防止するために、その栽培や移動が厳しく規制されている。
必要に応じて国や自治体が外来生物の防除を行っている。

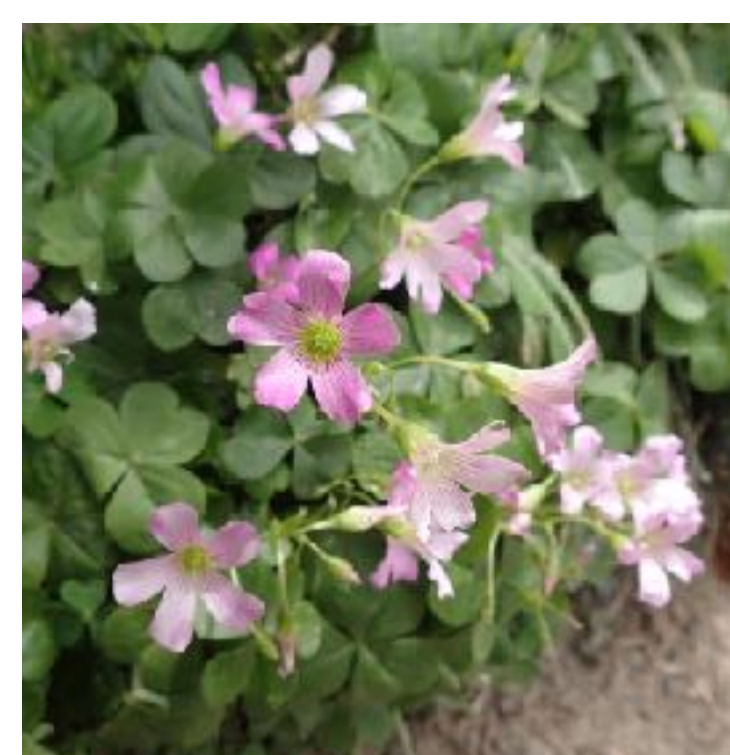


和名 **オオキンケイギク**
学名 *Coreopsis lanceolata*
原産地 北アメリカ

しおり作りについて

今回の環境デーなごやでは、しおり作りを通して帰化植物のことを、知ってもらいたいと思います。

我々の身の周りには、たくさんの帰化植物が含まれており、在来種に基づく生物多様性の保全について深刻な問題を投げかけているのです。



ムラサキカタバミ



ワルナスビ



コマツヨイグサ